

2018年1月1日以降の実績

1号機

現時点での特記事項なし

2号機

- ・2号機使用済燃料プール(以下、「SFP」という。)については、使用済燃料プール冷却浄化系(以下、「FPC系」という。)にて冷却しているが、2号機SFP循環冷却設備の信頼度向上対策工事において、同設備の二次系に近接する作業があるため、安全確保の観点から、1月16日午前6時33分に一次系の運転を継続した状態で、二次系を停止(1月22日まで停止予定)。停止時のSFP水温度は29.2。
- ・作業実績(1月16日午前6時33分～1月20日午後0時19分)。起動後のSFP水温度は31.9。

3号機

現時点での特記事項なし

4号機

現時点での特記事項なし

5号機

- ・5号機SFPについては、RHR系非常時熱負荷モードにて冷却しているが、RHR A系の計装品点検後の確認運転のため、SFP冷却停止を伴う作業を行う。
スケジュールおよび実績は以下の通り。
 - 1月19日午前9時58分～午後1時50分
 - ・RHR系非常時熱負荷モードによるSFP冷却停止
 - ・起動後のSFP水温度17.4(停止時17.0)

6号機

- ・6号機SFPについては、FPC系にて冷却しているが、以下の通り、SFP冷却停止を伴う作業を行う。
 - FPC系を冷却している補助海水系の機器点検を行う(1月17日～2月2日)ため、SFP冷却をFPC系から残留熱除去系(以下「RHR系」という。)による冷却へ切り替えを行い、補助海水系の機器点検後は、SFP冷却をRHR系よりFPC系による冷却に戻す。

SFP冷却中のRHR系の機器点検を行う(1月22日)ため、RHRを停止する。(RHR系の機器点検後は、RHR系を再起動する。)

スケジュールおよび実績は以下の通り。

- 1月17日午前9時41分～午前10時37分
 - ・FPC系からRHR系非常時熱負荷モードに切り替え
 - ・SFP水温度15.8(停止時15.1)
 - 2月2日午前10時～午後4時(約6時間停止)
 - ・RHR系非常時熱負荷モードからFPC系に切り替え
 - 1月22日午前9時44分～午前11時36分
 - ・RHR系非常時熱負荷モード関連機器点検による冷却停止
 - ・SFP水温度19.4(停止時19.2)
- 冷却停止中のSFP水温度上昇は約1.3と評価(温度上昇率:約0.204/h)

水処理装置および貯蔵設備の状況

【タンクパトロール結果】

現時点での特記事項なし

【H4、H6エリアタンクにおける水漏れに関するサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【地下貯水槽に関する水のサンプリング結果】

現時点での特記事項なし

【セシウム除去設備】

現時点での特記事項なし

【多核種除去設備(ALPS)】

現時点での特記事項なし

【増設多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【高性能多核種除去設備】

現時点での特記事項なし

【淡水化装置】

- ・1月19日午前8時28分に「RO設備漏れ監視装置異常」警報が発生。
現場を確認したところ淡水化装置建屋内で、淡水化装置のRO膜洗浄用のタンクの空気抜き配管から漏れいしていることを確認。淡水化装置(RO-3)を同日午前8時50分に停止。タンクからの漏れいは、タンクにつながっている弁を閉操作し停止していること、ならびに堰内に留まっていることを確認。
漏れい範囲は、10m×15m×1mmであり、漏れいした水の量は、約150リットルと推定。漏れいした水はRO膜の洗浄水で、漏れいした水の放射能分析結果は以下のとおり。
 - ・セシウム-134:3.2×10²Bq/l
 - ・セシウム-137:2.7×10³Bq/l

・全ベータ : 3.1×10^4 Bq/l

漏水した水は、同日午後1時20分に回収作業を完了。

今回の漏えいについては、当該タンクに接続してある常時閉の弁が開の状態であったため、本来流入しない RO 濃縮水受タンクへ供給される水がタンク内に逆流、これにより、タンクは満水状態となり、空気抜き配管より水が漏えい。

なお、当該弁を本来の閉状態に戻したことにより、設備は通常の系統状態に復帰。

準備が整い次第、淡水化装置を再起動予定。

・1月25日午後7時6分頃、パトロール中の当社社員が、建屋内RO循環設備B系からRO膜などの目詰まりを抑制するために使用する薬剤(次亜塩素酸ソーダ)と思われる液体が漏えいしていることを発見。

・漏えい場所 次亜塩素酸ポンプ(B)出口配管接続部

・漏えい範囲 約1.0m×1.1m×深さ1cm

・漏えいの継続有無 なし(次亜塩素酸ポンプ(B)出口配管接続部を増し締めしたところ、午後7時50分に滴下が止まったことを確認)

・外部への影響 漏えいした液体は堰内に留まっている

当該液体は本来、強アルカリ性であるものの、その後pHを確認したところ、中性(pH6~7)を示したため、漏えいした液体の放射能濃度を分析。分析結果は以下のとおりで、放射能濃度は、過去のRO処理前の水と同等であると確認。

・セシウム134: 4.8×10^2 Bq/L

・セシウム137: 4.2×10^3 Bq/L

・全ベータ: 1.9×10^4 Bq/L

漏えい水はRO処理前の水が次亜塩素酸注入ラインへ逆流して、次亜塩素酸注入ポンプ(B)出口配管接続部から漏えいしたものと考えられる。準備が整い次第、漏えいした水の処理を実施。

【RO濃縮水処理設備】

現時点での特記事項なし

【RO濃縮廃液タンク水処理設備】

現時点での特記事項なし

【その他】

現時点での特記事項なし

サブドレン他水処理施設

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

・一時貯水タンクG 1月2日午前10時7分~午後1時28分。排水量500m³

・一時貯水タンクA 1月3日午前9時48分~午後0時59分。排水量473m³

・一時貯水タンクB 1月4日午前10時38分~午後1時50分。排水量478m³

・一時貯水タンクC 1月5日午前10時12分~午後1時18分。排水量462m³

・一時貯水タンクD 1月6日午前10時5分~午後1時17分。排水量475m³

・一時貯水タンクE 1月7日午前9時29分~午後0時32分。排水量453m³

・一時貯水タンクF 1月8日午前10時~午後1時。排水量446m³

・一時貯水タンクG 1月10日午前10時5分~午後0時53分。排水量416m³

・一時貯水タンクA 1月12日午前11時14分~午後4時29分。排水量782m³

・一時貯水タンクC 1月14日午前10時19分~午後2時5分。排水量562m³

・一時貯水タンクE 1月16日午前10時6分~午後2時6分。排水量595m³

・一時貯水タンクF 1月17日午前10時~午後0時58分。排水量440m³

・一時貯水タンクG 1月18日午前11時4分~午後1時42分。排水量391m³

・一時貯水タンクA 1月19日午前10時9分~午後0時28分。排水量342m³

・一時貯水タンクB 1月20日午前10時25分~午後0時52分。排水量362m³

・一時貯水タンクC 1月21日午前9時49分~午前11時56分。排水量313m³

・一時貯水タンクD 1月22日午前10時4分~午後0時11分。排水量316m³

・一時貯水タンクE 1月23日午前10時1分~午後0時6分。排水量307m³

・一時貯水タンクF 1月24日午前9時56分~午前11時50分。排水量282m³

・一時貯水タンクG 1月25日午後0時4分~午後2時7分。排水量303m³

・一時貯水タンクA 1月26日午前10時10分~午後0時56分。排水量411m³

地下水バイパス

以下、排水実績のみ記載。

<排水実績>

・一時貯留タンクグループ1 1月4日午前10時3分~午後6時4分。排水量1,999m³

・一時貯留タンクグループ3 1月12日午前10時10分~午後5時59分。排水量1,979m³

・一時貯留タンクグループ2 1月18日午前10時7分~午後5時46分。排水量1,941m³

・一時貯留タンクグループ1 1月25日午前10時3分~午後5時40分。排水量1,868m³

<特記事項>

現時点での特記事項なし

【1~4号機サブドレン観測井のサンプリング結果】

<特記事項>

現時点での特記事項なし

【1号機放水路のサンプリング結果】

<特記事項>

現時点での特記事項無し

その他

【陸側遮水壁】

現時点での特記事項なし

【雑固体廃棄物焼却設備】

現時点での特記事項なし

【その他設備の不具合・トラブル】

・1月8日午前11時46分頃 サブドレン前処理フィルタ1Aより水抜き中に、3Aドレンヘッダホース接続部より水が漏れていることを当社社員が発見。状況は以下のとおり。

- ・発見時刻 午前11時46分頃
- ・発生場所(設備名称) サブドレン浄化建屋
- ・漏えい箇所 サブドレン前処理フィルタ3Aドレンヘッダホース接続部
- ・発見者 当社社員
- ・漏えい範囲 約0.3m×0.15m×深さ2mm
- ・拡大防止処置 水抜きを中止した
- ・漏えい継続の有無 停止中
- ・外部への影響 漏えいした水は堰内に留まっている

漏えいした水のスミヤ測定及び表面線量率測定を行った結果、サブドレン浄化建屋内のバックグラウンドと同等であることを確認。また、漏えいした水について、拭き取り処理を実施する。

【けが人・体調不良者等】

現時点での特記事項なし

【その他】

現時点での特記事項なし